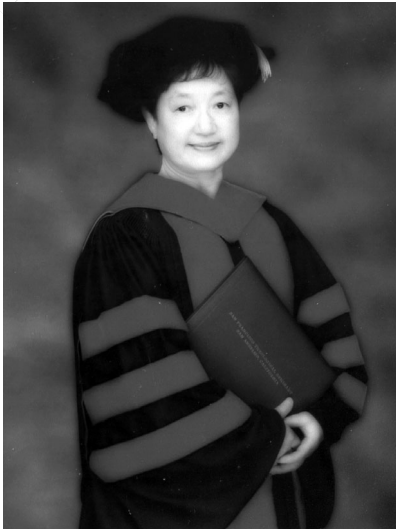




サバ神学院

元教授
パン・ケンピン
先生



連盟へのお手紙

1993年にスタートした女性会連盟の奨学金プロジェクトの恩恵を受けた多くの学生たちは、牧師や伝道師となってサバでの福音伝道の発展に尽くしてきています。これまでの長い年月にわたる女性会連盟の皆さんのご支援と愛とパートナーシップに心から感謝申し上げます。

現場で働いている奨学生・卒業生たちを訪問してくださった皆様は奨学金プロジェクトの貢献を直に知って頂けたことと思います。30数年という時は過ぎ去りましたが、築かれた友情は不変です。私どもは皆様との数々の良き思い出を共有しています。貧しく辺境におかれている人々に示してくださった皆様の愛と思いやり、伝道の使命を果たすためにいただいた協働のご奉仕に深く感謝いたします。

私は引退後、左目の視力を医療事故で失い、歩行も不自由になって人の助けが必要になりましたので、夫と共にサバを離れクアラルンプールの長男一家と暮らしております。コロナ禍の影響もあって、現職からはすっかり遠ざかっていますので、正式のご挨拶文を書くことはご遠慮させていただきます。女性会連盟の皆様のごことはこれからもいつも祈りに覚えてまいります。

(訳：室園教会 俵 恭子)

ケンピン先生ご夫妻近影(中央)

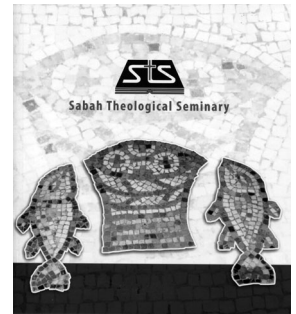
パン・ケンピン先生

- ・フェミニスト神学で博士号を授与される
- ・サバ神学院大学教授
- ・マレーシアバーゼルキリスト教会初の女性教職
- ・マレーシアバーゼルキリスト教会初代会長
- ・2003年、日本福音ルーテル教会婦人会連盟(当時)の75周年記念大会で講演されました。

「女性たちのヴィジョン：宣教の新しいステージへ」

—参考—

- * 婦人会連盟「サバ神学院訪問の旅」報告集 2000年
- * 婦人会連盟75周年記念公演冊子 2003年





サバ神学院からのメッセージ

BCCM 司教 ゴディバ・チョン氏

(Godiva Chog)

サバ神学院は、創立 38 年となり、これまで多くの方が学んできました。卒業生はマレーシア全土に散らばり、様々な形で主に仕えています。特に先住民のキリスト教徒に神学教育と教会リーダーシップとしての訓練を行ってきました。神学院では、神が私達に与えて下さった、この貴重な贈り物を大切に、多くの皆様の助けによって、ビジョンと使命を追求し続けます。JELC-W の長年のご支援と私達と共に歩んで下さったパートナーシップに心から感謝致します。

アニタ・アンサドウ牧師

(Anitah Ansadu)

神の恵みにより、サバ神学院で 2020 年から 2023 年にかけて学びました。その間、JELC-W からのご支援に心から感謝します。皆様に神様の豊かな祝福がありますように。私は 2024 年に BCCM ビンキュラスとダンガウに遣わされ、宣教に務めています。家族や女性、青年の交わりに力を注いでいます。薬物中毒、病気で苦しむ人々の訪問もしています。

レベッカ牧師

(Rebeca)

神学院を卒業し、4 年が経ちました。JELC-W からのご支援とお祈りに感謝します。私は現在、BCCM (バーゼルキリスト教会) で奉仕しています。サバ神学院から 12 km 程離れています。

牧師として、色々挑戦や困難と直面しながらも、神の恵みによって青年達の霊的成長を助けることに喜びを感じています。

サバ神学院校長 トウ・エン・ユ氏

(Thu En Yu)

この 30 数年間、サバ神学院にとって JELC-W のご協力とご厚意を多くの面で大きな恵みとなりました。STS で学んだ学生さんの大きな支援となったことを感謝いたします。皆さんが主に仕える時、主が力と知恵と喜びを豊かに祝福し続けてくださいますようにお祈りします。この意義深いニュースレターの準備を主が導いてくださいますように。



ビビアン・クリスティン・マーティン牧師

(Vivian Christine Martin)

2021 年から 2024 年まで JELC-W のご支援を受け、神学院で学べたことに感謝します。私は現在、BCCM テルヒットで奉仕しています。特に中学生を含む若い会衆に福音を伝えることは貴重なことです。神様が JELC-W を宣教の器として、多くの人に福音をもたらしますように！

マデリン・ジェフリイ牧師

(Madelin Jeffry)

私は現在、BCCM マウバルとテロピット の 2 か所で奉仕しています。日曜日の礼拝の中で、又家庭訪問で、神の言葉を届けています。病気の会員を訪ね祈ること、若者の為のクラスやサンデースクールでの奉仕にも取り組んでいます。JELC-W の 4 年間のご支援に心から感謝します。

STS …サバ神学院

Sabah Theological Seminary

BCCM…マレーシア バーゼル キリスト教会

JELC-W…日本福音ルーテル教会女性会連盟



■ 四半世紀前に

高橋要子

18期に入り間もなく、サバ神学院から「サバ州婦人会連盟大会」も開かれる時なので是非と招かれ、元連盟会長、会員、現役3名が参加しました。着いた日は、9・11多発テロが勃発した日で忘れもしません。早速翌日から各所見学、教会、催し場、ジャングル等に案内していただきました。私達の支援に対するお気持ちが心の底から伝わる教授方の対応に、胸が熱くなりました。連盟の支援は、何度も会報で夢が叶った卒業生達の顔写真を載せ明るいニュースを伝え続けました。又、サバ州婦人会連盟について知った事は、連盟は各教会に於いて、年代別に分かれ、各層で出来る活動をしているという事でした。(連盟18期会長)

■ 同じ主を信じる交わり 澤田小枝子

私がサバの神学生と接したのは「こどもキャンプ」が「国際キャンプ」だった頃、たまたまスタッフとして参加したキャンプに、神学生たちが立ち寄ってくださったのです。私自身マレーシアがどんな国か、サバがどんな場所なのかを知らない頃の出会いです。

2018年に女性会連盟の役員となり、翌春ケンピン先生ご夫妻の日本訪問の際「ぜひサバに」とのお誘いから、訪問が実現しました。

車での移動中、突然の雷とスコール。リードで繋がれない犬や、庭を自由に動き回る鶏などなど…異国であることを感じます。

日が沈む頃、海岸で見た夕日は神秘的で感動でした。戦争中にあった出来事に、争いがいかに愚かなことなのかを思います。山の上の教会と街なかの教会はあまりにも対比的でした。けれども他国から来た、同じく主を信じる者たちを精一杯もてなしてくださる気持ちは、どちらも恐縮するほどに有り難いものでした。今後も、両国に主の祝福と導きが豊かにありますように。(拳母教会)

■ イエス様の大宣教命令 浅野聖子

私がサバ訪問に参加したのは、2013年サバ神学院25周年の卒業式の際でした。パン・ケンピン先生ご夫妻はじめ先生方との出会い、奨学金受給生との対面、マレー系、中国系教会の女性リーダーとの交流、25周年記念卒業式、お祝いの民族色豊かな音楽と舞踊、1000人が集う大会食、主日礼拝、無国籍のない子ども達の為の学校訪問…どの一つをとっても感動的な経験でした。これらはサバにおける力強い宣教活動の一端にすぎませんが、イエス様の大宣教命令(マタイによる福音書28:18-20)を心に留めて宣教し、困難な状況にある方達への具体的な助けになろうとする情熱が伝わってきました。

30年以上に亘ってサバ神学院と繋がることで、私たちが宣教の業にささやかでも加わることができたという感謝でいっぱいです。

■ 連盟 最後の訪問

中原通江

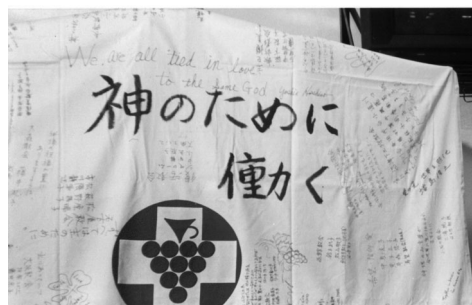
森下真帆神学生と共に 2019年10月5~8日

サバ神学院を初め、BCCM本部、聖日礼拝、元奨学生との交流など恵みいっぱいの4日間でした。神学生を伴っての訪問はどこでも大歓迎されました。「イスラム教徒の多い国での布教は大変」との私の思いは見事に裏切られました。むしろ培われた宗教心があるからこそ、キリスト教をも熱心に求め、改宗は家族単位で入信というケースが多くあり、目覚ましい発展があったのではないかと思います。元奨学生が牧会する教会を訪問。創立後約10年で信徒数が100人以上になり、新しい教会建設を検討しているとのこと。サバでの牧師養成を応援してきた女性会連盟の働きを始めから終わりまで神さまが導き、お支えくださったことに改めて深く感謝します。願わくばこれからも新しい形での連携が出来ればいいなと思っています。(連盟24期会長)

■ これからも繋がりを！ 坪本告子

2019年10月5日~8日サバ訪問に行かせて頂き、美しい水平線を見て地球が丸いのを感じ、あのサンセットが忘れられません。到着まで、初めての女性教職者のケンピン先生にお会いしたいという気持ちでした。飛行機が遅れ、コタキナバルに着いた時に素敵なワンピースを着てらした先生が気さくに笑顔で優しくお声を掛けて下さり、長旅の疲れも忘れてしまいました。BCCM「マレーシアバーゼルキリスト教会の事務局へ訪問し、アメリカやフィンランドなど日本のルーテル教会の助けを頂いて宣教に勤しみられたのを伺いました。先輩方々のサバ神学院との繋がりがあって、神学生がたくさん誕生し、障害を乗り越えて働かれ事。伸び伸びした環境、逞しいパワーを見習いサバの方々に影響され、これからも繋がっていたいと思います。(日吉教会)

サバ！
主にある交わりの祝福に感謝！！



サバ神学院竣工式にて、女性会の皆さんが寄せ書きしたメッセージをお渡しし、大きな拍手をいただいた。
We are all tied in love to the Same God.



サバ神学院にてジェンダー正義を考える

安田 真由子

7 月、サバ神学院でLWF主催の研修会が行われました。詳しくは『るうてる』2025 年 9 月号をご覧ください。ここではジェンダー正義に焦点を当てて研修内容を振り返ります。

研修最初の講義は「神の似姿としての創造」について。インドのダリット（不可触民）フェミニスト神学者プラスナ・ネラヴァラが担当し、人はみな性別に関わらず神の似姿に造られている、それはつまり、女性や LGBTQ+ の人々も神の姿を反映していると語ります。神様を思い浮かべるとき、白髪にひげの生えた男性の姿を思い浮かべる人も多いかもしれませんが、若い女性や老婆、性別のない人、男女どちらにも見える姿で思い浮かべてもいいはずなのです。さらに、創造物語において神様は命を生み出す存在であり、男女の子どもを身ごもる母のような姿でもあるとの話が印象的でした。

わたしの担当講義では、「洗礼、万人祭司、按手と宣教」「ジェンダー正義」などについて扱いました。聖書には「女は黙っているべき」など女性差別的な言葉がありますが、どの言葉を批判的に読み、どの言葉を大切にしていけるのか。その基準はどこにあるのか。社会や自分の内側にも巣食っている差別的な価値観を問い直すための問いを共有しました。研修参加者の皆さまと有意義な時間を過ごせたことに感謝です。（ルーテル学院大学講師）



紫のTシャツ

下川 正人

10 代前半のころ、市ヶ谷教会の女性会（マルタの会）の方からサバ神学院のおみやげとしてスクールTシャツを頂戴しました。当時の私は、異国の神学校に関心を抱くには幼く、服に記された中国語の文字も理解できませんでした。それでも、はるばるボルネオ島から運ばれてきた紫の生地は、どこか心に隠然と残っていました。

それから約 20 年後、私は期せずしてサバ神学院を訪れることとなりました。今年 1 月にコタキナバル市で開催された「アジア・ルーテル国際会議」の一環で、同校を見学する機会を得たのです。その中で、女性会連盟の皆様のこの学校に対する熱意の源に、わずかながら触れることができました。激しい宗教的・民族的軋轢を経験してきたマレーシアで、様々な文化的背景をもつ学生たちが一つの信仰に根ざして共に学び生活するこの共同体が、いかに貴い存在か。昔のTシャツに込められた思いをようやくこの身に感じる事ができた、幸いな時間でした。

（JELA職員・市ヶ谷教会）



■ 温かい出会いに感謝 梅田満枝（通訳）

私とサバ神学院との出会いは、第 18 期の役員さんたちがサバ神学院を訪問された時、通訳として同行したことが最初です。

2001 年 9 月 11 日、アメリカで同時多発テロが発生した翌日のことでした。ボルネオ島の亜熱帯植物の生い茂る丘の上に神学院がありました。ケンピン先生や教授たち、および奨学金受給者の学生たちとの緊張した雰囲気での会話を記憶しております。この時は奥深いジャングルの中にある教会も訪問し、またサバ婦人会の総会にも招かれて、婦人会の熱気に圧倒された記憶もあります。この最初の訪問でケンピン先生や当地の方々とお友達になり、サバとサバ神学院はその後度々訪問するほど親しく、懐かしい場所となりました。

（市ヶ谷教会）



サバ神学院